

アイヌ施策推進地域計画 中間目標評価報告書

実施主体	計画の名称	(中間) 目標年度
北海道平取町	平取町アイヌ施策推進地域計画	令和3年度

1. 目標の達成状況

アイヌ施策推進地域計画における(中間)目標	目標値 A	実績値 B	達成率(%) B/A	備考
アイヌ文化施設入館者数(人/年) (・博物館民具撮影事業 ・アイヌ工芸体験学習事業 ・屋外展示施設整備事業 ・大学・大学院と地域との連携事業 ・二風谷地区整備事業 ・二風谷アイヌ文化博物館普及啓発事業 ・アイヌ文化観光プロモーション事業 ・地域イベントによるアイヌ文化情報発信事業 ・アイヌ文化*食*回遊コンテンツの磨き上げ事業 ・アイヌ文化の魅力発信事業 ・イオル文化交流センター建設事業 ・アイヌ文化広域交流圏形成事業 ・アイヌ文化拠点交流促進バス運行事業)	85,000	33,622	39.56	
生活館利用者数(人/年) (・アイヌ文化の継承事業 ・アイヌの精神文化の伝承事業 ・アイヌ文化教育推進事業 ・大学・大学院と地域との連携事業 ・図書館アイヌ関係資料整備事業 ・生活館大規模改修事業)	34,000	32,414	95.34	
平取町アイヌ関係 Web 閲覧数(アクセス/年) (・博物館民具撮影事業 ・アイヌ工芸体験学習事業 ・イオル再生事業 ・シシリムカ文化大学運営事業 ・劇団 PATHOSPACK「永遠の矢＝トワノ」)	52,000	43,758	84.15	

「アイ」公園開催事業 ・二風谷アイヌ文化博物館普及啓発事業 ・アイヌ文化観光プロモーション事業 ・地域イベントによるアイヌ文化情報発信事業 ・アイヌ文化*食*回遊コンテンツの磨き上げ事業 ・アイヌ文化の魅力発信事業 ・イギリス等のジャパンハウス派遣事業 ・アイヌ文化のブランド化推進事業 ・アイヌ文化広域交流圏形成事業 ・アイヌ文化拠点交流促進バス運行事業 ・先住民族との交流事業				
伝統的家屋（チセ）活用件数（件/年） ・アイヌ工芸体験学習事業 ・アイヌ文化の継承事業 ・イオル再生事業 ・大学・大学院と地域との連携事業 ・アイヌ文化観光プロモーション事業 ・21世紀・アイヌ文化伝承の森推進事業	60	64	106.67	
体験交流事業の参加人数（人/年） ・アイヌ工芸体験学習事業 ・イオル再生事業 ・屋外展示施設整備事業 ・大学・大学院と地域との連携事業 ・アイヌ文化観光プロモーション事業 ・地域イベントによるアイヌ文化情報発信事業 ・アイヌ文化*食*回遊コンテンツの磨き上げ事業 ・アイヌ文化の魅力発信事業 ・アイヌ工芸品制作機器導入事業 ・アイヌ文化広域交流圏形成事業 ・アイヌ文化拠点交流促進バス運行事業	1,800	1,729	96.06	

アイヌラッピングバス利用者数（人/年） ・アイヌ文化・交通拠点ネットワーク形成事業	3,000	3,115	103.83	
平取町学習塾利用生徒数（人/年） ・図書館アイヌ関係資料整備事業 ・平取町学習塾運営事業	90	119	132.22	

アイヌ施策推進地域計画における(中間)目標	達成状況	備考
アイヌ文化施設入館者数 ・博物館民具撮影事業 ・アイヌ工芸体験学習事業 ・屋外展示施設整備事業 ・大学・大学院と地域との連携事業 ・二風谷地区整備事業 ・二風谷アイヌ文化博物館普及啓発事業 ・アイヌ文化観光プロモーション事業 ・地域イベントによるアイヌ文化情報発信事業 ・アイヌ文化*食*回遊コンテンツの磨き上げ事業 ・アイヌ文化の魅力発信事業 ・イオル文化交流センター建設事業 ・アイヌ文化広域交流圏形成事業 ・アイヌ文化拠点交流促進バス運行事業	5,6,8,9 月の緊急事態宣言期間は一斉に閉館したため未達成	
生活館利用者数 ・アイヌ文化の継承事業 ・アイヌの精神文化の伝承事業 ・アイヌ文化教育推進事業 ・大学・大学院と地域との連携事業 ・図書館アイヌ関係資料整備事業 ・生活館大規模改修事業	5,6,8,9 月の緊急事態宣言期間中は利用の自粛を促したため未達成	
平取町アイヌ関係 Web 閲覧数 ・博物館民具撮影事業 ・アイヌ工芸体験学習事業 ・イオル再生事業	5,6,8,9 月の緊急事態宣言期間中は閲覧数が減少する傾向にあるため未達成となった	

・シシリムカ文化大学運営事業 ・劇団 PATHOSPACK「永遠の矢＝トワノアイ」公園開催事業 ・二風谷アイヌ文化博物館普及啓発事業 ・アイヌ文化観光プロモーション事業 ・地域イベントによるアイヌ文化情報発信事業 ・アイヌ文化*食*回遊コンテンツの磨き上げ事業 ・アイヌ文化の魅力発信事業 ・イギリス等のジャパンハウス派遣事業 ・アイヌ文化のブランド化推進事業 ・アイヌ文化広域交流圏形成事業 ・アイヌ文化拠点交流促進バス運行事業 ・先住民族との交流事業		
伝統的家屋（チセ）活用件数 ・アイヌ工芸体験学習事業 ・アイヌ文化の継承事業 ・イオル再生事業 ・大学・大学院と地域との連携事業 ・アイヌ文化観光プロモーション事業 ・21 世紀・アイヌ文化伝承の森推進事業	緊急事態宣言期間を避けて事業を実施したため利用件数は目標を超えた	
体験交流事業の参加人数 ・アイヌ工芸体験学習事業 ・イオル再生事業 ・屋外展示施設整備事業 ・大学・大学院と地域との連携事業 ・アイヌ文化観光プロモーション事業 ・地域イベントによるアイヌ文化情報発信事業 ・アイヌ文化*食*回遊コンテンツの磨き上げ事業 ・アイヌ文化の魅力発信事業 ・アイヌ工芸品制作機器導入事業 ・アイヌ文化広域交流圏形成事業 ・アイヌ文化拠点交流促進バス運行事業	緊急事態宣言期間が体験事業を想定していた期間と重なったため未達成となった	

アイヌラッピングバス利用者数 ・アイヌ文化・交通拠点ネットワーク形成事業	町民への周知が行き届き、現在は順調に利用者数が目標値を超えた。	
平取町学習塾利用生徒数 ・図書館アイヌ関係資料整備事業 ・平取町学習塾運営事業	初年度から継続した生徒数の確保が出来ている。	

(コメント)

上記の達成状況については、令和4年2月24日開催の平取町アイヌ総合政策推進協議会（年3回開催：アイヌ協会、町、町議会、地域関係団体、学識経験者で構成）の中で、報告と、ご意見・ご指導をいただいた。令和4年度以降の事業もコロナ禍を意識しつつも、今後、ワクチン接種後の状況に合わせた事業実施についての意見も頂戴した。

2. (中間) 目標達成のために実施した各事業の進捗状況と効果

(文化振興事業：博物館民具撮影事業)

事業の進捗状況	事業実施主体
アイヌ文化継承振興として、二風谷アイヌ文化博物館が保有する民具資料を適切かつ良好な状態で将来につなぐことを目的に、台帳・図録データ作成のための撮影業務を行った。 令和元年度はアイヌ民具171件：300カットを撮影、令和2年度はアイヌ民具630件：800カットを撮影、令和3年度はアイヌ民具354件：400カットを高解像度で撮影した。また、撮影済み資料は台帳を作成、HP掲載用の基礎データとして活用する。	平取町
事業の効果	
成果物は、高解像度データをハードディスクで納品し、あわせてサムネイルプリントで提出してもらった。 今後は随時、撮影済みデータを入力・公開する。すべての撮影が終了したのちには図録を刊行予定。 これにより、年々経年劣化していく貴重な民具資料の撮影データを保存することで、アイヌ文化の普及啓発、研究のために活用することが期待できる。	

(文化振興事業：アイヌ工芸体験学習事業)

事業の進捗状況	事業実施主体
アイヌ工芸の人材育成ならびに伝統的工芸品産業と交流産業の振興を図るため、平取町アイヌ工芸伝承館（ウレシパ）を主たる場所として、木彫や織物、レーザー彫刻機など体験メニューを行った。 ウレシパにおける体験件数について、令和元年度は872件、令和	平取町

2年度は224件、令和3年度は677件という結果となり、令和2.3年度は新型コロナウイルス感染症対策による緊急事態宣言やまん延防止期間中の閉館による機会損失が原因と考える。	
事業の効果	
二風谷民芸組合の伝統工芸師の指導により、普段では体験できないアイヌ文様の木彫コースター体験することで、伝統工芸師の技術を間近で見ることができ、アイヌ工芸を通してアイヌ文化に触れることができるとともに参加者の思い出の品とすることができた。さらに、レーザー彫刻機やUVプリンターなどを活用し、従来のアイヌ工芸とはちがった普段使いできるアイテム制作などアイヌ工芸に身近に触れられる機会を創出できた。また、多くの方に体験していただき高齢化が進んでいる伝統工芸の後継者対策としても効果的と考えている。	

(文化振興事業：アイヌ文化の継承事業)

事業の進捗状況	事業実施主体
アイヌ文化の保存・継承を図るための人材（アイヌ語、アイヌ古式舞踊、アイヌ伝統食の継承など）を育成する。	平取町
事業の効果	
アイヌ文化を学び、年齢に関係なく、アイヌ文化（知識、言葉、風習等）を後世に繋いでいけるように、定期的な教室開催や、発表会への参加などにより、人材を育成できた。	

(文化振興事業：アイヌの精神文化の伝承事業)

事業の進捗状況	事業実施主体
アイヌの人々の心の拠り所となり、毎年、慰霊祭を執り行う場所となる施設（慰霊施設）を整備した。	平取町
事業の効果	
町内から全国の各大学へ色々な状況にて収集された特定アイヌ遺骨が平取町に返還された。身近な町内で保管・管理されることで、アイヌの方々の心の拠り所となっている。今後は慰霊祭などを行う場としても活用していく。	

(文化振興事業：アイヌ文化教育推進事業)

事業の進捗状況	事業実施主体
アイヌ民族の歴史や文化、アイヌ語を指導できる伝承者や実践している方を町立小中学校、道立平取高校のほか、アイヌ政策推進交付金事業計画を策定していない自治体の学校等へ派遣し、授業を実施することで、児童・生徒及び教員のアイヌ文化に対する理解促進を図った。 また、町内の小中学校などがアイヌ文化について、系統的に学ぶことのできるカリキュラムを構築するために必要な学習教材や資料を作成し、アイヌ文化学習の推進を図った	平取町

町内外の小中学校・高校でのアイヌ文化学習及びアイヌ語教育に係る指導及び資料・教材等を作成した。 アイヌ文化学習 R2 27日、R3 45日 出前講座（立命館慶祥高等学校） 5回	
事業の効果	
町内外の学校から依頼を受け、アイヌ語及びアイヌ文化の出前講座を実施、アイヌ工芸家やアイヌ文化関連組織と協力し、学校にて刺繍、工芸体験を実施したことでアイヌ文化への理解促進が図られた。	

（文化振興事業：イオル再生事業）

事業の進捗状況	事業実施主体
沙流川流域の豊かな自然の中で、多くのアイヌの人々が生活に密着した伝統文化活動を行っている。こうした活動を支援するため、広大な空間を設定し、自然素材の採取の場となるイオルの森や水辺空間等を活用して植栽、試験栽培を行うとともに、生活文化の中心であったコタンの再現などを行い、即時利用が可能な自然素材を活用した活動の拡がりや進化を目指す「活動型」イオルを指向する。 令和元年度から引き続き実施している取組みとしては、イオルの森等から必要な自然素材を採取するとともに、新しく荷負地区の町有地に整備した「新イオルの森」を計画的に進めている。また、苗畑や水辺空間において試験栽培を継続するとともに、沙流川流域において、新たに水辺空間として新水辺空間を整備し、計画的に水生植物の栽培を継続的に実施している。	平取町
事業の効果	
空間整備に関しては、令和2年度にはトゥペサンチセ（ポロチセ）、令和3年度にはイワンチセ（ポンチセ）の屋根葺替え作業を実施し、地域の技術指導者（伝承者）から、直接、実践的な指導をいただくことで、若い作業従事者への伝承活動につながったといえる。 また、新イオルの森（荷負地区）では、町有地を無償で貸与し、R2より新しい森づくりをスタートできたことは大きな成果と言える。新水辺空間においても、土嚢袋に入れたガマ株の試験栽培を初めて試みたが、今後の成長に期待がもてる。体験交流事業は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら、新しく子供の遊び体験を入れながら、町民を中心に実施できたことは意義が高かったと言える。	

（文化振興事業：シシリムカ文化大学運営事業）

事業の進捗状況	事業実施主体
令和元年度に施行されたアイヌ施策推進法をふまえ、平取町が推進する多様なアイヌ施策の取組を推進するために施策関係者の知見を高めるとともに町民の理解を促進することを目的として文化大学	平取町

講座を開催する。	
事業の効果	
令和２年度は、シマフクロウの生息環境の再生、伝統的な狩猟文化の再生、河川文化環境の調査・保全、額平川流域のアオトラ石とジオパークによる地域振興、日高山脈の国立公園化、アイヌ施策推進法のもとでのイオル、文化的景観、ミュージアム(博物館的施設)群に関する８回の講座を開催し、町民へ今後の施策に反映していくことができる多くの知見を学ぶことができた。新型コロナウイルスの感染拡大を受けて第５回から講師並びに受講者もリモート方式を取り入れ、そのことが聴講者の範囲を全国規模に拡大することにつながった。 令和３年度は、アイヌ・アート（芸術）、イザベラ・バードが残した記録、サケ学超入門、民族文化のイメージとことば、アットゥシのアイヌ社会における歴史、21世紀アイヌ文化伝承の森プロジェクトの成果と展望に関する６回の講座を開催し、町民が今後の施策に反映していくことができる多くの知見を得ることができた。令和３年度も新型コロナウイルスの感染拡大を受け、講師並びに受講者もリモート方式を取り入れ、そのことが町民を中心とした聴講者の範囲を全国規模に拡大することにつながった。	

（文化振興事業：屋外展示施設整備事業）

事業の進捗状況	事業実施主体
チセ（家）を主としたアイヌの伝統的な建造物を適正に管理し、屋外展示・体験学習施設として活用する。 令和２年度実施個所：狩小屋２棟、チブ小屋、竪穴住居、男便所、女便所 修繕	平取町
事業の効果	
アイヌ文化を学び、理解していただくため、チセ等のアイヌの伝統的な建造物を定期的に修繕することで、安心・安全に体験学習や観光イベントへの施設利用ができることとなった。	

（文化振興事業：大学・大学院と地域との連携事業）

事業の進捗状況	事業実施主体
全国の大学生・大学院生を対象として、現地宿泊型の体験学習を通して、多くのアイヌ文化の魅力を見てもらい、触れてもらい、体験することによって、理解促進が図られることを目的としている。 また、参加学生は、自身のインスタグラム等を活用し、広く情報発信に努め、北海道平取町及びアイヌ文化を発信し、多くの国民に広める活動を行う、また、体験を通じた活動報告の成果発表やレポートを作成し、提出する。 参加者数 R2 19名、R3 13名	平取町
事業の効果	
令和２年度は新型コロナウイルス感染拡大による国の緊急事態宣言が発令され、急き	

よ、緊急事態宣言地域の学生は、オンラインでの参加ということにした。来町される学生、教職員についても事前にPCR検査を受けていただき、ワークショップに参加いただいた。地元で体験の講師を務めていただいた二風谷民芸組合、アイヌ文化保存会等々、高齢の講師が多いため、地元の受け入れについても団体と話し合い、理解を得て実施することができた。また、急ぎょ、一部、オンラインでの開催ということを開催1ヵ月前に決定し、体験キットの事前送付や講師の材料準備、オンライン開催のための機材の確保等々、非常にハードスケジュールの中、事業を実施した。参加学生のポストアンケート結果を見ても、満足度4.8点と高い評価を得ることができたのは、大地連携協議会委員を務めていただいた大学の教職員の指導力も非常に高かったと言える。また、オンライン開催のための事前リハーサルなど準備体制も非常に良かったと言える。

令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大により、大地連携ワークショップ夏inびらとりは中止し、大地連携ワークショップ冬inびらとりはオンラインでの参加により開催した。地元で体験の講師を務めていただいた二風谷民芸組合、アイヌ文化保存会等々、オンラインでの開催について各団体と話し合い、理解を得て実施することができた。また、オンラインでの開催ということを開催約1ヵ月前に決定し、体験キットの事前送付や講師の材料準備、オンライン開催のための機材の確保等々、非常にハードスケジュールの中、事業を実施した。参加学生のポストアンケート結果を見ても、高い評価を得ることができたのは、大地連携協議会委員を務めていただいた大学の教職員の高い指導力に加えて、令和2年度に一部オンラインにて開催した経験をもとに実施方法を綿密に検討・改良した運営ノウハウの蓄積も効果を発揮したと言える。

(文化振興事業：劇団PATHOS PACK「永遠の矢＝トワノアイ」公演開催事業)

事業の進捗状況	事業実施主体
劇団PATHOS PACKの演劇「永遠の矢＝トワノアイ」は、都会で生まれ育ったアイヌ民族の血を引く兄弟を中心とした物語で、公演をとおしてアイヌ民族やアイヌ文化に興味をもってもらい、今後の普及や伝承活動への理解を深めることを目的に開催。 令和3年度 入場者 200人	平取町
事業の効果	
本公演では、アイヌ民族への差別や偏見の歴史、現在のアイヌの誇りが表現されており、アイヌ民族や文化を理解するうえでわかりやすい演劇であった。 開演前には、町長より平取町におけるアイヌ文化の取組や現状をお話し、参加者の理解を深めることができた。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、入場者を町民限定、人数制限(定員の半数)として開催したが、申込を開始し早期に定員となり大変好評であった。 アンケートの回答の多くの参観者から感銘を受けたとの感想があり、若い人やアイヌのことを知らない人に観てもらいたいとの意見が寄せられた。	

(文化振興事業：図書館アイヌ関係資料整備事業)

事業の進捗状況	事業実施主体
町立図書館にアイヌ文化に関する資料コーナーを整備し、アイヌ文化関係の魅力ある資料を提供するとともに、アイヌ関係の研究にも資する資料を収集し提供する。また、子どもたちにも関心を持ってもらうため、アイヌ関係の児童書を整備し、学校図書室への貸し出しや読み聞かせを実施し、アイヌ文化への理解を深めた。 アイヌ関係資料（図書・視聴覚資料）176 点を購入	平取町
事業の効果	
町内の小学校 5 校と中学校 1 校にアイヌ関係の図書を長期に貸し出すとともに、小学校 2 校において、アイヌ関係の児童書の読み聞かせを実施し、アイヌ文化への理解と興味を深めることができた。 また、児童館でも読み聞かせを行い、アイヌ文化への関心をもつ機会となった。	

（文化振興事業：二風谷地区整備事業）

事業の進捗状況	事業実施主体
① 平取町アイヌ工芸伝承館ウレシパと軒を並べる匠の工房のリニューアルを図るべく、匠の工房と担い手の工房を設置。工房についてムービングハウス等を用いることを検討。 ② ①で設置した工房を活動の場として提供し、匠の制作活動、若手の技術の習得・研鑽につなげる。工芸の作業が沿道を歩く人たちから見えるような造りの工房を設置することで、制作活動のアピール、購買意欲の喚起および来訪者と匠の交流を同時に実現に向け検討。 ③ 木彫品、織物等の工芸品の展示ブースを設け、匠、若手問わず展示を行い、若手の技術研鑽を喚起する。匠の重厚な伝統的工芸品だけでなく、カジュアルでリーズナブルな若手の作品等も展示し、若い購買層にもアピールする。 ①～③について二風谷地域住民を中心にアイヌ工芸家なども含め検討を行った。	平取町
事業の効果	
二風谷地区における匠の工房と、担い手の工房の設置に向け、ムービングハウス等を用いることを念頭に配置等について、地域住民等で構成する協議体との意見交換を図り、委託先の事業実施計画策定業務に意見反映を行いつつ作業を進めることができた。 工房が匠の制作活動、若手の技術の習得・研鑽につながる施設の機能の洗い出しと、制作活動のアピール、購買意欲の喚起および来訪者と匠の交流を同時実現する工房のレイアウトについて検討し、複数案を示しつつ、作業が沿道を歩く人たちから見えるような造りと交流が図られる工房の配置案を決定することができた。 伝統的工芸品の工房及び作品展示の場を基本とする文化の体感・交流の場となる施設	

の構成や空間づくりについて計画を策定できた。また、その適正規模について算出することができた。

一般的な工法によらない仮設的な建築物（ムービングハウス等）を用いた柔軟な空間構成を実現する建築手法について検証できた。

概略経費の算出、基本設計図の作成等、実施設計を行うことができた。

（文化振興事業：二風谷アイヌ文化博物館普及啓発事業）

事業の進捗状況	事業実施主体
二風谷アイヌ文化博物館の運営理念である「アイヌ伝統文化の今日的継承」に沿った普及啓発を行うため、地域住民及び一般来館者に対してテーマを絞った事業を実施し、アイヌ文化への理解を促進した。	平取町
事業の効果	
沙流川流域のアイヌ文化や宗教の変遷を学び伝えていく上で有意義な普及を行うことができた。開催中の来館者数 5,264 名、受講者数講座①田辺陽子氏講演 10/10 開催 77 名、講座②小川正人氏講演 11/13 開催 81 名。アンケート結果は満足とやや満足が全体の 82.8%（1 回目）、88.1%（2 回目）、内容についても概ね好評であった。	

（地域・産業振興事業：アイヌ文化観光プロモーション事業）

事業の進捗状況	事業実施主体
ポータルサイトの多言語化 ⇒令和 2 年度 に制作したポータル サイト 「平取町へ。アイヌ文化へ。」の英語版 を制作した。（英語版公開日は令和 3 年 10 月 1 日。） 動画コンテンツの拡充・多言語化 ⇒平取町のアイヌ文化の魅力を発信することを目的に動画コンテンツ 2 種 を制作し、観やすさを考慮し、それぞれ 1 分 30 秒程度の長さとした。 ガイドブックの増刷（および配布） ⇒令和 2 年度 に制作した 平取町のアイヌ文化観光を分かりやすく発信するガイドブックを増刷した（仕様： A5 判、16 頁、オールカラー 5,000 部） WEB サイトへの誘導と閲覧者分析 ⇒令和 2 年度 に実施した「G o o g l e ディスプレイ広告」に加え、特定のエリアに訪問した人のスマホ にバナーを掲出する 「位置情報ターゲティング広告（D meets）」を活用した WEB サイトの告知と誘導を実施した。 食をテーマにした外部との協働	平取町

⇒平取町で受け継がれてきた アイヌ料理の普及やニーズについて考察するため、道内大手ホテル 企業・野口観光 と連携し、ホテルの食事会場で提供した。	
来訪者へのアンケート調査 ⇒二風谷コタンを訪れた人への対面調査と、アイヌ文化拠点交流促進バス運行事業として、平取・白老エリアと札幌駅・新千歳空港を周遊するバス「セタブクサ号」の参加者の二つの 対象から回収した。	
事業の効果	
コロナ禍の先が見通せない中でツアー商品の造成やインバウンドの積極的な誘致といった直接的な観光客増加は難しいが、アフターコロナあるいは with コロナへ向けた情報素材の準備を 進めるとともに、今後の商品造成へ向けたニーズの把握など、観光行動が回復したときに対応できるような事業を展開できた。	

(地域・産業振興事業：地域イベントによるアイヌ文化情報発信事業)

事業の進捗状況	事業実施主体
町内実施イベントの「チプサンケ」にてアイヌ舞踊の披露を実施した。 町内イベント以外で平取に伝わるアイヌ文様とその意味を理解してもらうチラシ及びアイヌ文様を活用したノベルティの作成及び配布を行った。	平取町
事業の効果	
チプサンケは全道及び全国から訪れるアイヌ文化に触れることができる人気イベントで、今回はチプサンケに参加された方々へ、この地方に伝わる二風谷アイヌ古式舞踊を披露した。舞踊は二風谷アイヌ保存会が中心となり 19 名となった。披露した舞踊は「チャピーヤク (アマツバメの踊り)」「ク・リムセ (弓の舞)」「ハララキ (大空を飛ぶ一羽の鶴の踊り)」の 3 演目とした。本来なら演者と観覧者が一緒に舞踊を踊るのだが、今回は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止とした。観覧者からは普段見ることのできないため、興味を示しながら観覧する方が多いと感じている。 アイヌ文化に触れるノベルティ及びチラシの配布については、全 4 事業にて作成した約 2,000 セットを配布することとなった。札幌圏で実施した 2 件の物産展での配布は全 4 日間ながら 600 セットを配布。道外で実施した日本橋高島屋「大北海道展」では 600 セットが 3 日間で、EQUALAND SHIBUYA (イコーランドシブヤ)「つくって、出会って二風谷アイヌクラフト」では 800 セットが 4 日間で配布が終了することとなった。今回のノベルティはクリアファイルにすることで、もらった方々が仕事又はプライベートで利用できるデザインとし、二風谷の工芸家である貝澤守氏のイタと貝澤雪子氏のアットゥシを使用することとなった。また、チラシにはイタに彫られた文様の意味を記載することで、より多くの方にアイヌ文化を広めることが出来た。	

(地域・産業振興事業：アイヌ文化＊食＊回遊コンテンツの磨き上げ事業)

事業の進捗状況	事業実施主体
アイヌ文化に触れていただく機会を更に増やすとともに、アイヌ文化に触れたお客様を二風谷地区だけではなく町全体に波及するため、食や土産品等を活用し回遊することができる仕組みづくりを目的とし、二風谷地区のウレシパや工芸館、民芸店・博物館などを基軸に観光客が1か所（事業所）だけではなく、そこから町内全体へ経済効果を波及するために、飲食や土産、温泉が参加し観光客の回遊を促進させるため回遊チケットの販売を行っている。 チケット販売数 R1 202/500 枚、R2 779/1000 枚、R3 1017/1200 枚	平取町
事業の効果	
令和元、2、3 年度と実施している事業ですが、初年度は実施期間が短期間だったこと令和2.3 年度は新型コロナウイルス感染症による利用施設の閉館などがあり、十分な販売結果にはなっていないが、内容としては体験での使用が年々伸びている、土産は例年同水準で推移しており、バランスよく使用されたことが分かる。特に体験ではアイヌ工芸伝承館ウレシパでの利用が大きく、チケットに合わせた体験メニューも造成され、利用頻度が大きくなった。二風谷アイヌ文化博物館での使用も多く、萱野茂二風谷アイヌ資料館との共通券を多くの方が購入している。また、びらとり温泉ゆからでも使用枚数が増え、温泉⇒二風谷観光又は二風谷観光後⇒温泉となっており滞在時間の延長に繋がっているとも言える。アイヌ工芸品販売店舗においては、伝統工芸品等は高額の為、チケット利用に繋がりがづらいものの、土産品等の安価な商品の購買も促進されており、食も土産も体験も温泉もと二風谷及び平取町を楽しむなど、事業の趣旨にあった利用方法となった。	

(地域・産業振興事業：アイヌ文化の魅力発信事業)

事業の進捗状況	事業実施主体
アイヌ文化に触れていただく機会を更に増やし、中若年世代をターゲットとした誘客の実施とともに、アイヌ文化への認知度の向上と、より身近に幅広くアイヌ文化に触れてもらうことを目的とし、人気アニメ「ゴールデンカムイ」とコラボし、謎を解説しながらアイヌ文化を楽しく学ぶことが出来る謎解きイベントを開催した。また、コタンを活用したアイヌ料理の試食体験など様々なコンテンツを実施した。アイヌ文化を幅広く認知させるため、平取町及び町内アイヌ文化関連ホームページ等の WEB を活用した、平取のアイヌ文化に魅力発信を目指した、非来町型謎解きイベントを実施した。	平取町
事業の効果	
令和元年度は、実施時期が冬季だったこともあり、参加者数は低調であったが、アンケート（回答数 525 件）などを実施し翌年度に向けた問題点などの洗い出しを行った。当	

イベント来場者のみでの地域経済効果は 1,867,533 円となった。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、前年度と同様に低調となった、アンケートの回収も 620 件となったが、当イベント来場者のみでの地域経済効果は 2,877,160 円（元年度比 154%）となった。

令和 3 年度の謎解きイベントは、新型コロナウイルスの感染対策を踏まえ、スマートフォン等を活用した、非接触型として実施した。新型コロナウイルスの影響により緊急事態宣言が発令され、来場者は大きく減少した。ただし、宣言下の中でも来場される方々の為にも、8 月 27 日（金）～9 月 30 日（木）まで、各施設の外観に二次元コードを貼付することで対応した。今回の非接触型として実施したことにより今回の対応が可能となった。このイベントの中心的世代は 30～40 代となっており、約 70%とほとんどを占めていることから、中若年層への来場とアイヌ文化への魅力発信に大きく効果を表している。当イベント来場者のみでの地域経済効果は 4,622,930 円（2 年度比 161%）となっており、今後も新たな方策を展開していくことにより、アイヌ文化のみならず、平取町の魅力発信、そして経済波及効果へとつながると考える。

この事業実施に伴い、新型コロナウイルスの影響があったものの各施設への入場者数も令和 2 年度に比べ大きくはないが増加した。今後も新たな方策を展開していくことにより、アイヌ文化のみならず、平取町の魅力発信、そして経済波及効果へとつながると考える。

（地域・産業振興事業：イギリス等のジャパンハウス派遣事業）

事業の進捗状況	事業実施主体
アイヌ文化関連観光プロモーション事業の一環として、世界にアイヌ文化を発信し、インバウンド等の誘致を図るためジャパンハウスロンドンを中心に展示・イベントを実施。令和元年度は事業の企画打合せを行った。	平取町
事業の効果	
ジャパンハウスの設置者である外務省との打合せ(2019.11.29)後、2020.2.18～2.23 の日程で在英国大使館、ジャパンハウスにて 2021 年度のアイヌ文化発信事業について打合せ。本事業を 2021.10～2022.1 月の 4 か月間で行うことを確認したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により実施期間の変更を余儀なくされた。今後、期間中のイベントに伴う平取のアイヌ関係団体の派遣について、詳細な内容については、新型コロナウイルス感染症の状況もあるが 2022 年度中に打ち合わせを行う予定となっている。	

（地域・産業振興事業：アイヌ文化・交通拠点ネットワーク形成事業）

事業の進捗状況	事業実施主体
各地区の生活館において、自治会を中心に様々な活動が行われており、高齢者を対象に自宅から生活館までのバス運行を実施し、地域コミュニティ活動への参加支援を行った。	平取町
また、既存の都市間バス（隣接町～札幌間）と接続することで、	

町民の利便性の向上を図った。	
事業の効果	
バス運行が始まり、各地区の生活館で開催されている地域コミュニティ活動へ参加する高齢者が増えてきている。 アイヌ高齢者にとっては、これまで以上に社会参加の促進が図られ、閉じこもり予防はもとより、自身の介護予防（身体面・認知面）に繋がっている。 さらに、都市間バスへの接続により利便性の向上が図られたとともに、アイヌ文様が施されたバスを運行させる事により、町内住民だけではなく、広くアイヌ文化への理解促進や普及振興を図ることができた。	

（地域・産業振興事業：イオル文化交流センター建設事業）

事業の進捗状況	事業実施主体
これまで平取地域イオル再生事業について、沙流川流域の森林、河川のエリアを拡大し事業を行い、二風谷コタンの空間整備やアイヌ文化の伝承に必要な材料となる自然素材の育成や調査を今後拡充して行う。また、（公財）アイヌ民族文化財団からの委託を受け実施する伝承者育成事業の活動拠点として担い手の育成に必要なアイヌ文化の学習や研修、技術の習得を行う場として整備した。 R1 基本設計、R2 実施設計、R3 本体工事	平取町
事業の効果	
令和元年度に基本計画及び基本設計の策定、令和2年度に策定した実施設計をもとに地域関係団体との調整を行い、担い手の育成に必要な学習機能やイオル再生事業に必要な自然素材の調査や育成に必要な機能について熟慮を重ねてきた。現在、平取町にはこのような施設はなく、今後、各種事業の展開に中心的な機能を有した施設となる。	

（地域・産業振興事業：アイヌ工芸品制作機器導入事業）

事業の進捗状況	事業実施主体
アイヌ文化に関連した新たなブランド（商品）の開発・製造のため、木工旋盤機械やレーザー彫刻機、UV プリンターなどを導入した。 R1 木工旋盤機、レーザー加工機、UV プリンター	平取町
事業の効果	
今後、民族共生象徴空間（ウポポイ）開業などによる観光客の増加を見込み、これまで手作業にて行ってきた作業を一部効率化することで、現在品薄になっているアイヌ工芸品の充足、機械化による新たな工芸品の製造・開発時間の確保に効果がある。	

（地域・産業振興事業：アイヌ文化のブランド化推進事業）

事業の進捗状況	事業実施主体
アイヌ文化に関連した新たなブランド（商品）の開発・製造のた	平取町

めにも、新たな視点からのアプローチとして現代的なデザイナーとのコラボレーションを継続的に進めアイヌ文化の伝統の継承と新たな発展に向けた取り組みを行った。 R1 伝統工芸品にかかる調査業務、R2.3 コラボ商品開発や販路開拓など	
事業の効果	
現代的なデザイナーや工芸品などの販売に精通したプランナーと協働し、アイヌ工芸の価値向上に向けた取り組みを進めたことにより、工芸家や地域関連団体においてブランド化が浸透してきている。若年層やアイヌ工芸を知らない方々への認知もすすんできたことで、アイヌ文化全体への理解が進んだと考える。また、後継者問題点などに対する工芸品を通じた取組をバイヤーなどから知見を得ることでアイヌ工芸家自らが自発的な取り組み、新たな商品開発についても相談があり今後の事業へのステップアップが見られる。	

(地域・産業振興事業：21 世紀・アイヌ文化伝承の森推進事業)

事業の進捗状況	事業実施主体
平成 24 年度に平取アイヌ協会、北海道森林管理局、平取町が締結した協定を基にアイヌ文化の伝承に必要な自然素材の確保のための国有林野内での有用素材の育成状況等の調査、試験栽培、アイヌの伝統的生活空間として相応しい森林の再生を進めた。	平取町
事業の効果	
平取アイヌ協会会員へのアンケートやヒアリングによる国有林の共用林野制度等に関する調査研究、現地踏査による植生調査、東北マタギとの合同狩猟などのアイヌの伝統的狩猟文化に関する調査研究、基礎データの収集・整理による包括的フレームとしての文化景観・文化環境に関する調査研究を行い、アイヌ文化の振興に資する森林の保全・活用方を具体的に検討していくための基礎的認識と把握を行うことができた。 また、国有林内にシマフクロウの巣箱 (R1 2 ヶ所、R3 1 か所) を設置、シマフクロウの餌となる魚類相調査、頭首工などの遡上障害物調査、アベツ川流域国有林内に昨年度設置した動物侵入防止柵内にアイヌの伝統的有用植物の植栽、動物侵入防止柵の設置 (R1 1 ヶ所、R3 1 か所)、森林・植物の専門家とのアイヌの伝統的有用植物分布調査、アイヌの民具の制作、伝統的漁法や鹿猟などアイヌの伝統的狩猟文化の継承と試行を行い、それらを動画に記録することができた。	

(地域・産業振興事業：アイヌ文化広域交流圏形成事業)

事業の進捗状況	事業実施主体
古くからアイヌ文化が継承されてきた平取町 (平取町は二風谷地区を中心にアイヌの伝統文化が脈々と継承され、今日もアイヌ文化が息づく地域として希少な文化価値を有している。)をはじめとする鶴川・沙流川流域へ誘客し、アイヌの歴史文化の理解と交流を図っ	平取町

た。 札幌から平取町へインフルエンサー（フォロワー1,000人以上）の1泊2日のモニターツアーを実施した。募集サイトの運営、告知、PRを行い、参加者にはツアーでの情報発信を実施した。 アンケートの集計・実施結果の評価分析を行い、事業効果の測定・検証を行った。	
事業の効果	
コロナウイルスの影響は依然としてあったものの、感染対策や、参加者の意識、理解も進んでおり、安全と感染対策を徹底しながら、無事予定の回数を実施することができた。 本事業では、影響力のあるインフルエンサーとメディア関連の方に5名一組の形で計4回のモニターツアーを実施し、少人数で回することで、宿泊施設の予約や部屋割りの問題も起きず、より深くアイヌ文化に触れることができた。モニターツアーの実施は、情報の拡散だけではなく、実際の来訪にもつながることを実感した。	

（地域・産業振興事業：アイヌ文化拠点交流促進バス運行事業）

事業の進捗状況	事業実施主体
平取町は二風谷地区を中心にアイヌの伝統文化が脈々と継承され、今日もアイヌ文化が息づく地域として希少な文化価値を有している。 アイヌ文化の理解と交流を促進するため、ウポポイ（民族共生象徴空間）・二風谷コタン（広域関連区域）・新千歳空港（観光客の玄関口）を結ぶ有料バスを期間限定で運行することにより、体験観光客の入込の増加と地域の振興を図った。 バスの乗客数はR2 31回 291人、R3 36回の運行で424人となった。	平取町
事業の効果	
令和2年度は当初想定していた夏季期間に新型コロナウイルス感染症の感染拡大により満足な結果が得られなかったが、事業を実施したことでアンケートから道外客の動向について、新千歳空港起点だけではなく札幌起点にする必要があるなど、アイヌ文化観光に係る消費者ニーズを確認し次年度への参考とすることができた。 令和3年度は大手旅行エージェントのHISを中心に、旅行エージェント（AGT）からの営業協力が集客に大きく寄与し、AGT経由で148人の乗車申し込みがあった。2020年からの乗車増の主要因はここにある。 令和3年度の事業開始初月の7月は平均乗車9.5名/日と出足がやや鈍かったものの、10月は14.1人/日、11月は12.9人/日と、事業目標（12.3人/日）を上回った。メディア報道の効果が現れるまでのタイムラグがあったこと、緊急事態宣言の発令による事業の中断など、複数の要因が重なった結果と思われる。 令和3年度の参加者の年齢層は60代以上が48%（2020年は50%）、道外からの参加	

者が 30%（2020 年は 15%）。夏休みシーズンに運行したことで道外客の利用が増えたと思われる。

（コミュニティ活動支援事業：先住民族との交流事業）

事業の進捗状況	事業実施主体
先住民族（ニュージーランド：マオリ族）との国際交流を進め「地域資源を活かした持続的産業」と先住民族としてのアイデンティティーのあり方を学ぶ機会を持った。 R1 中学生 3 年 5 名	平取町
事業の効果	
交流事業に参加した学生（中学 3 年 5 名）は、マオリ族の生徒たちとの交流を通して、今後のアイヌ語や古式舞踊の習得など、アイヌ文化伝承に携わる彼らの目標設定の一助になった。 また、マオリ族とアイヌ民族との今後の交流活動に一層のつながりを構築することが出来た。	

（コミュニティ活動支援事業：平取町学習塾運営事業）

事業の進捗状況	事業実施主体
少子化、進路の多様化などにより、地元を離れる子どもたちが増加していることから、地元高校への進学者を確保するとともに、町内の中高校生の学力向上を図り、将来の町を担う人材を育成するため、町内中学生及び平取高校生を対象とした無料の公営塾を生活館の類似施設である住民センターで開講した。 公営塾開設により、質の高い教育が受けられる環境を提供するとともに、アイヌ子弟の進学率向上や保護者負担の軽減が図った。 生徒登録者 R1 115 名、R2 117 名、R3 119 名	平取町
事業の効果	
令和元年度は通塾していた中学 3 年生は全員第 1 志望の高校に合格、高校 3 年生も全員進学・就職することができた。町内中学生の 2/3、平取高校生の 1/2 が利用している。 また令和 2 年度は平取高校生 2 名が国公立大学に合格し、他の 3 年生も全員進学・就職することができた。町内中学生の 80%、平取高校生の 60%が利用している。 令和 3 年度は通塾していた中学 3 年生は全員第 1 志望の高校に合格、高校 3 年生も全員進学・就職することができた。町内中学生の 70%以上、平取高校生の半数が利用しており、アイヌ子弟の学力向上に寄与している。	

（コミュニティ活動支援事業：生活館大規模改修事業）

事業の進捗状況	事業実施主体
荷負本村生活館は築 21 年、本町生活館は平成 10 年 2 月に完成し、20 年以上経過している。	平取町

これまで毎年点検は行ってきたが、大規模改修等を行って おらず、近年、屋根及び外壁部分の全体に著しい老朽化が進んでいる ことから、大規模に改修（屋根塗装、外壁張替）を行った。 これにより、屋根の鋼板の長寿命化、外壁の劣化による躯体への 損傷が軽減され、施設の長寿命化が図られた。	
事業の効果	
町内の各生活館において、アイヌ文化関係団体による講座や体験事業など、文化の継承 活動が系統立てて進められており、今回の改修事業によって、生活館機能の回復したこと で、長寿命化が図られ、地域の文化伝承活動の拠点及び地区の集会施設として利用が可能 となった。	

3. 今後の方針等

(コメント) 今後も、町と町議会、アイヌ関係団体や学識経験者にて構成される平取町アイヌ総合政 策推進協議会（年3回程度開催）において、事業実績と計画について逐次報告し、その状 況に合わせて事業内容に変更を加えていく。 また、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、引き続きウポポイなどと連携し 国内の観光客に対しアイヌ文化に関するPRを行う。さらに、アイヌ工芸品などについて はSNSなどを活用し国内外へPRを継続し国内外での販売方法の確立を行う。 今後、渡航制限が緩やかになることを想定しインバウンド対策としてジャパンハウス などを利用しながら認知度の向上に努めていく。
--